

第22期工学部同窓会理事会 会長報告

2017, 1, 26

西口 克彦

第22期の総括

役員改選により第22期工学部同窓会・会長に専任され2年が経ちました。これまでの2年間を総括します。

先ず初めに、同窓会組織の運営力を強化するため会則を改変し、役員会を従来の副会長会に変えて設置しました。そのため、権限を明確にし運営をスムーズに行うことができました。一方、副会長は、各部会のリーダーをお願いし、ボランティアの活動とは言いがたいご苦勞をおかけしましたことは、誠に申し訳なく、感謝申し上げます。

組織の重要課題である学生奨学金の運用も少しずつ軌道に乗ってきました。運営する資金が高額ですので、事務方以外に会計・役員を新たに設け運営に当たりました。国の奨学金制度の改革により、無償の奨学金が充実されることに成りますので、今後、奨学金の運営には再検討が必要になるものと考えます。

また、長年の課題であったHPの充実と活用につきましては、担当部会の努力によりその活用の緒に就くことができました。今後は活用の拡大を願うものです。

総務部会に於きましても、評議会、その後の同窓生懇親会、特別講演会開催、現役学生の工場見学会（先輩同窓生との交歓会を含む）等の諸行事の運営も順調に進めることができました。今後も充実と継続をお願いしたいと思います。

一方、会の収入については、事務方の努力により他の学部に比べて新入生からの支払い率も高く順調に推移し、事業収支は健全に推移しました。しかし、今後については府大との大学統合は必至ですので、このような運営資金の徴収は不可能となります。そのような中、全学同窓会が採用しようと準備しています同窓生に対する会費の徴収システム（有恒会方式；年会費の徴収と支払者に対して会報の送付）が本会運営に今後の大きな課題となると考えます。

以上この2年間を振り返りますと、概ね順調に推移したと総括します。これも理事の皆様及び工学部のご協力の賜物と熱く感謝申し上げます。

最後に、今後も理事の末席を以て同窓会の発展に微力ながら努めたいと思います。

以上